

ジオン注始めます

南大阪病院外科

日本人に多い病気の一つに痔があります。

痔の患者さんの中でも最も頻度が高いのは『いぼ痔（痔核）』と呼ばれる、肛門の血管が拡張してこぶ状になったものです。『いぼ痔』はさらに直腸側にできる内痔核と、肛門側にできる外痔核に分類されています。

内痔核は、肛門の粘膜の下にある血管の集合している部位が引き伸ばされることで、出血したり肛門の外に出ることで生じます。痔核の症状としては、出血、脱出、腫脹、分泌物、痛みなどがあります。痔核の治療法には様々なものがありますが、今回当院で新しく導入した『ジオン注』についてご紹介します。

痔核の治療法

痔核の治療法には

1) 保存的療法：果物・食物繊維の摂取と、便通をよくしていきみを避けることと、肛門部に塗布する軟膏が使われることがあります。

2) 硬化療法

痔核の膨隆部局所に薬液を直接注射して効果を得る治療法で、当院で開始した『ジオン注』も硬化療法の一つです。

3) ゴム輪結紮療法

専用の小さな輪ゴムを内痔核膨隆部の基部にかけ、ゴムの収縮力を利用して絞扼し、痔核を壊死・脱落させる治療法です。

4) 手術療法

手術療法は、麻酔をかけて痔核の結紮を行う方法です。
などがあります。

ジオン注（痔核硬化療法）

「ジオン注」とは、脱出を伴う内痔核（排便時に出てくる、あるいは普段から出たままになっているような「いぼ痔」）に対する新しい治療法で、手術療法に比べて痛みが少なく施術後の患者様の負担が少ないのが特徴です。4段階注射法（1つの主痔核に対して4箇所に分割して注射する）と呼ばれる特殊な注射法があり、ジオン注の講習を受けて認定された医師が勤務する施設でのみ施行が可能です。痔核部に薬液を投与することで、痔核内の血流が低下し炎症が起き、数週間後に炎症作用の修復反応による繊維化により、痔核が硬化退縮します。

特徴

- 入院期間が短い
 - 術後の痛みが軽い
 - 合併症(出血、狭窄)などが生じにくい
 - 他疾患を持つ高齢の方でも治療可能
- という特徴があります。

ジオン注のメリットとデメリット

【メリット】

内痔核の一部が、手術による切開なく、注射だけで治療できることが最大の特徴です。

- 入院期間が短い
- 切開しないので痛みや出血が少ない。
- 治療期間が短いので、身体的・精神的な負担が軽減されます。
- 保険適用の治療で、短期の入院が可能なため経済的負担も軽減されます。

【デメリット】

- すべての脱肛する内痔核を治せる治療法ではありません。症例により手術が必要となったり、手術とジオン注射を併用する治療が望ましい場合もあります。
- 約10%に再発を認めます。

痔核でお悩みの方へ

さまざまな治療やお薬を試しても、なかなか良くならない痔の事でお悩みの方もあきらめずにご相談ください。当院外科では患者さんの症状にあわせて最適な治療を提案します。

